

## 第 284 回 昭和の森自然観察会

### セミとトンボのふしきを探ろう

晝間 初枝（四街道市）

日 時：2015 年 8 月 9 日（日）13:00～15:00 天候：晴時々雲り

参加者：41 名（大人 23 名 子ども 18 名） 指導員：11 名

担当指導員：花島伸美 晝間初枝

セミの声が響き渡る真夏の午後、元気いっぱいの子ども達が虫とり網をもって集合。今回は、「セミ」と「トンボ」がテーマであることから、虫好きの子ども達とその家族が大半でした。

3 グループに分かれて出発！「セミ」と「トンボ」は、どちらも身近な生きものでありながら不思議なことがいっぱいあることから、その謎をみんなで探っていこうというものです。

すぐに、セミの抜け出た穴を発見、棒を差し込むと意外と浅い。何年も地中で過ごして、夏に一斉に出てくる生態は何とも不思議…。

木や草についている抜け殻はニイニイゼミ、アブラゼミ、ヒグランシの 3 種、大きさや表面の様子から違いがすぐわかりました。見上げると細い枝先の葉にもたくさんアブラゼミの抜け殻がみられ、セミのすご技に关心。抜け殻を手にすると、何と鋭い脚、しっかり掴まれるようになっていることがわかりました。抜け殻に残る白い糸は「何だろう？」と気になり、抜け殻を開いてみるとたくさん並んでいました。羽化したセミと最後まで繋がっている命の糸、呼吸するところであることを話しました。木の下には鳥に食べられ無残な姿のセミや寿命が尽きたセミが驚くほど落ちていました。それらを拾って、オスとメスを見分けたり、口や産卵管、鳴く仕組みなどを観察しました。ツクツクボウシも鳴き始め、セミは頭上でたくさん鳴いているけれど、捕えることは大変でした。

それに比べてトンボはたくさん群れていて、おもしろいように捕えることができました。しばらくみんなでトンボ捕りを楽しんだ後、トンボを間近に観察しました。一人一人脚に指を近づけてみるとがっしり掴まれ、空中で獲物を捕えるには都合がよいことを体験しました。次に、大きい複眼と小さい単眼を探した後、複眼レンズでトンボの目になってみると同じものがたくさん見え、大喜びでした。トンボに食い入るように目を近づけて、トンボのすごさをたくさん見つけました。

谷津へ下る途中は、杉林では見られなかったナツアカネやコノシメトンボが、湿地に行くと、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、オニヤンマ、ギンヤンマ等々。環境によってトンボの種類が異なることを実感しました。

水路の上をパトロールするオニヤンマが通る度に歓声があがり、みんなで何度もチャレンジ！ ギンヤンマも行ったり来たりしているけれど時間切れ…。チャレンジしたことに満足、後ろ髪をひかれながら移動しました。途中、クヌギの木にオニヤンマの抜け殻がいくつも並んでいたのにびっくり！ 子ども達の元気と笑顔に暑さを忘れるひと時でした。最後に、トンボを森へ返して観察会を終えました。

